

第 1 回岩手競馬経営の将来方向検討会議における主な意見

区 分	主な意見
1 発売額の動向等	<ul style="list-style-type: none"> ① この 10 年間で、<u>1 人当たり購買単価が減少している要因</u>を分析すべき。 ② <u>他の公営競技等との比較・分析</u>も必要。
2 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>馬や競馬が一般の方にとって遠い存在</u>ではないか。身近に感じてもらう取組を考えるべき。そうしないと、競馬場に足を運んでももらうことは難しい。 ② <u>プラスイメージの情報発信がない</u>。マイナスイメージが根付いてしまって、競馬ファン以外の方には何をやっているのかわからないのではないか。 ③ 集客の方策として、直接馬券に結びつかなくても、お祭りや太鼓のギネス登録など、<u>競馬場をもっと身近に感じてもらう取組</u>はあるのではないか。 ④ <u>県や市のパンフレット・広報誌を活用</u>し、競馬場やレースを P R できないか。 ⑤ <u>青森、秋田は重点地区</u>であり、ファンの取り込みをもっと行うことが必要。
3 ファン拡大、ファンサービス	<ul style="list-style-type: none"> ① ファン層が高齢者の男性に偏っており、<u>世代更新</u>を図る必要がある。 ② <u>ファンサービスは本当に求められているものなのか、次の世代のファンは競馬に何を求めているのかをリサーチ</u>することが必要。 ③ <u>外国人観光客</u>に目を向け、台湾・中国などのエージェントを活用すべき。 ④ <u>家族連れ、女性</u>などのファン層拡大を図るべき。(食べ物や植樹に注力) ⑤ <u>見学会(バックヤードツアー)</u>を充実すべき。(競馬関係者との意見交換等) ⑥ <u>V I P ルームの活用</u>について、年会費や特典などを再検討し、活用の幅を広げられないか。 ⑦ <u>馬券の販売</u>について、面倒な推理をしなくても買える方法を検討できないか。 ⑧ <u>どんなに小さいことでも、前向きにやっていくうちに大きな形</u>になっていくので、<u>どんどんやっていくことが重要</u>。(県内外からの観戦ツアー等) ⑨ <u>競馬も、大きなインバウンド(外国人の旅行、日本滞在)の手段</u>になりうる。大きなマーケットに対する備えも必要。
4 I T 対応	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>I T 化の波に乗ること、東京での岩手競馬の知名度を活かすこと、民間的手法を取り入れる</u>ことで、回復は可能。 ② J R A との相互発売は大きなチャンス。地方競馬全国協会や J R A との付き合いを含め、<u>全国的な流れを意識して、良いレースを作っていく</u>ことが必要。

区 分	主な意見
5 施設の有効活用	<p>① <u>観光資源としての活用や地域社会との関係も含めて、広い観点に立って競馬場を上手に使う</u> ことが必要。</p> <p>② ファンの世代交代の観点から、<u>レストランやブティック等の併設</u>について、法的規制や費用負担などの面で単純にはいかないが、議論していったらどうか。</p> <p>③ 帯広競馬場の近くには、「<u>とちかむら</u>」（産直施設等）があり、観光客を誘致し、競馬場に勢いが出てきている。こうした取組は一つのきっかけづくりになる。</p>
6 その他	<p>① 岩手競馬は、歴史と伝統があり、<u>地方競馬の中の地方競馬的な存在</u>。岩手の<u>頑張りは地方競馬に勇気を与える</u>。</p> <p>② これ以上売上げが落ちる可能性もあり、安定的な経営のためには、従来のやり方をリセットし、<u>発売額に応じた体制の見直し</u>も考えることが必要。</p> <p>③ ファンと主催者の間で意識のズレがあるのではないか。<u>安定的経営とは、構成団体の財政にとってマイナスにならないことを指すのか、雇用を含めた競馬事業そのものを指すのか</u>、明らかにすべき。</p> <p>④ 岩手競馬の安定化は、岩手競馬単独の問題ではありえない。<u>競馬事業を、馬の生産から馬券の販売まで、一つの全国的な流れとして考えるべき</u>。</p> <p>⑤ 経営者の視点からすると、<u>共同トータの導入による期待など、認識が甘い</u>のではないかと思う。</p> <p>⑥ 売上額、雇用数、経済波及効果で<u>大企業レベルにある競馬組合が、単年度赤字即廃止という条件下で安定的経営を図ることは難しく、5年、10年の中での収支均衡といった方向に変えていけるのであれば道筋が見える</u>のではないか。</p> <p>⑦ これからの厳しい経営環境下では、<u>財政競馬は難しく、単年度赤字の場合は止めることも含めて、現在ある競馬を生かしていく視点も大切</u>。</p>